

SUCCESS

表紙 静岡大学管弦楽団 解説 『第100回記念定期演奏会』

静岡大学管弦楽団は2018年12月24日に静岡市清水文化会館マリナートにて『第100回記念定期演奏会』を行いました。定期演奏会は1964年から50年以上に渡り上演してきました。当日は150名の合唱団とともに大曲「第九」を披露し、1000人を超える多くの来場者を圧倒しました。次回『第101回定期演奏会』は2019年7月15日(月・祝)に静岡市清水文化会館マリナートで行われます。大曲を成功させ、更にパワーアップした静岡大学管弦楽団の演奏をぜひ聴きにきてください。



2019年度 前学期の主な行事予定

- 4月4日(木) ————— 2019年度入学式(グランシップ・大ホール)
- 4月10日(木) ————— 授業開始
- 5月11日(土)～12日(日) — 春のビッグフェスティバル(静岡キャンパス)
- 5月11日(土) ————— 春季オープンキャンパス(静岡キャンパス)
- 5月17日(金) ————— 全学一斉地震防災訓練(静岡・浜松キャンパス)
- 6月1日(土) ————— 創立記念日
- 8月13日(火)～14日(水) — 夏季一斉休業
- 9月13日(金) ————— 秋季学位記授与式

編集 後記

今号では社会的関心の高いAI・情報分野について取り上げました。本誌で紹介したとおり本学ではAI・情報分野における教育・研究活動を推進し、社会や地域へ還元できるように努めています。

また、特集ページで紹介した静岡大学管弦楽団を始めとして、本学では多くの学生が様々な分野で活躍していま

す。学生の活躍について、皆様に広く知ってもらいたいと今号では「学生の活躍トピックス」を掲載しました。大学ホームページでも多くの学生の活躍を紹介していますのでぜひご覧ください。

<http://www.shizuoka.ac.jp/stars/index.html>

ACCESS MAP



静岡キャンパス 静岡市駿河区大谷(おおや)836

●交通機関 (バスにて所要時間約25分、1時間に5～7本運行)
JR静岡駅北口のしずく号シャトルバス88番乗り場から、美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷(静岡大学経由)」行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム(静岡大学経由)」行きに乗り、「静岡大学」又は「静大片山」で下車。美和大谷線「東大谷」(静岡大学を経由しないもの)行きに乗りした場合、「片山」で下車。



浜松キャンパス 浜松市中区城北(じょうほく)3-5-1

●交通機関 (バスにて所要時間約20分、1時間に10本程度運行)
JR浜松駅北口バスターミナル15、16番乗り場から乗車、遠鉄バス全線「静岡大学」下車。



静岡大学管弦楽団 第100回記念 定期演奏会

CONTENTS

- 学長メッセージ/
現代の情報技術革命と
スポーツ・ショックの時代……………1
- 静岡大学におけるAI・情報分野の
教育研究及び社会貢献……………2
- 人類の知及び学術文化の継承と発展に貢献
特色ある研究を推進する
静岡大学研究者紹介……………3
- 静岡大学管弦楽団
「第100回記念定期演奏会」を終えて…5
- 卒業生紹介
様々なジャンルで活躍する先輩たち…7
- 広報学生委員会(SU-NOW)企画
静大生協ショップのアレコレ……………9
- 私たちの研究室
野菜園芸学研究室……………11
- 学生の活躍トピックス……………13
- 静岡大学未来創成基金
寄附者芳名一覧……………14



学長メッセージ



現代の情報技術革命と スプートニク・ショックの時代

静岡大学学長 石井 潔

AIや高速ネットワーク通信5Gに代表される情報技術革命やそれを背景とするビッグ・データの活用が未来の社会の在り方を大きく変える可能性について語られることが多くなっています。今回の特集もそうですが、本学でこれらの分野を専門にしている教員が講演や寄稿を求められる機会も格段に増えてきました。国立大学としては最も早い時期に「情報」を冠する学部を設立した我々にとっては追い風だと感じていますし、このような大学としての強みを今後とも前面に打ち出して行きたいと考えています。

他方で最近のSociety 5.0をめぐる議論を聞いてみると、どこか既視感にとられる点もあります。特に1950年代から60年代にかけてのスプートニク・ショック前後の時代の雰囲気は現代と共通する部分が大いように思います。当時人類初めての人工衛星スプートニクの打ち上げで社会主義国ソ連に遅れをとったことはアメリカをはじめとする資本主義陣営にとって大きなショックだったわけですが、あらゆる分野のイノベーションで常に競争相手の一歩先を行かなければならないという現代人の強迫観念にはこれとよく似たところがあります。

ファーウェイ問題に象徴される「技術や情報を盗み取る中国」に対するアメリカの厳しい態度は、当時の米ソの科学技術競争を思い起こさせますし、アメリカの数学者ウィーナーが提唱した膨大な情報を制御してシステムを動かす理論としてのサイバネティクスへの関心が高まり、このような理論を基礎とする様々な分野でのオートメーション化が進めば、人間の労働は不必要になるだろうという未来予測も当時かなり流行しました。また競争相手の研究成果を迅速に解説しようとしてロシア語と英語の間の機械翻訳の開発に米ソがしのぎを削ったのもこの時代でした（機械翻訳の方は実際にはあまりうまく行きませんでした。人海戦術での論文英訳にも巨費が投じられ、このことが科学技術用語としての英語の地位をあげるのに大きく貢献したとも言われています）。

情報技術革命を中核とするイノベーションが我々にもたらしてくれる可能性について夢を語ることは、豊かな未来社会を築き上げていく上で不可欠の要素です。しかし、夢を語るだけでは過大な評価を生みがちで、無益な競争を抑えることができないことを歴史は示しています。このような両面に絶えず視線を定めつつ、常に「冷たい頭と熱い胸」を備えた研究・教育の場としての大学でありたいものだと思っています。

静岡大学におけるAI・情報

AI世代の情報デザイナーの育成を目指して

情報学部 行動情報学科 教授 湯浦克彦

静岡大学には「情報学部」があります。1995年に国立大学では全国に先駆けて設置されて以来、文科系と理科系の垣根を超えて自主性を高める教育を進めています。

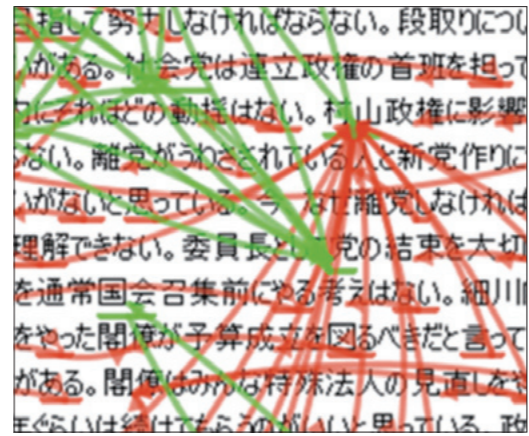
例えばAIに関しても、データ分析や機械学習など数理的な基礎をしっかり学ぶとともに、システム開発の演習においてもAIを題材に取り上げており、AIの目的や利用法について積極的に経験して学習することができます。また社会的な観点から、企業の業務の中でAIが置き換えていくべき仕事や、逆に人間による独自性の高い判断が引き続き求められる仕事の特性などを考察する授業もあります。

先端情報学実習という科目では、教員と学生による、AI関連を含めた様々な研究プロジェクトに自由に参加することができます。学生が抱く新製品や新技術への意欲やフレッシュな感覚を専門知識を持つ教員たちにぶつけることで、新たな発見と刺激が生まれます。そこで3年次で学会発表の場に立つなど目覚ましい成果をあげています。

コンピュータで言葉を操る「自然言語処理」の挑戦

情報学部 行動情報学科 准教授 狩野芳伸

ここ数年「人工知能」が注目を集めています。人工知能とは何か、人によって考えが違うでしょうが、人間の知能をコンピュータで実現する、と考えると、高度な知的機能の基礎である言葉をいかに扱うかということは中核的な課題であるといえます。人間の言葉をコンピュータで扱う工学分野を自然言語処理といいます。人間が言葉を扱う仕組みはわかって



複雑な言語情報の例



会話の分析例▶

(提供: 科学技術振興機構 (JST))

分野の教育研究及び社会貢献

いないことも多く、未解決の課題も多い挑戦的な分野です。狩野研究室では、そうした自然言語処理の研究を行っています。たとえば、司法試験の自動解答と法律文書の処理を行っており、論理や抽象性といった高度な処理が必要ですが、将来的には裁判など法律関係の仕事の自動化支援が考えられます。医療分野では、電子カルテの処理、精神疾患の診断支援などを行っています。究極的にはより人間に近い振る舞いをするシステムの構築を目指しています。特に、人間と会話のできる「対話システム」の構築に挑戦しています。

AIを支えるパーソナルデータの経済価値分析

情報学部 情報社会学科 准教授 高口鉄平

現在関心が高まっているAIの利活用が進展するためには、その材料ともいえるデータが重要になります。とくに、購買履歴や位置情報といった私たち自身に関する情報=パーソナルデータは、マーケティング、まちづくりなど、様々な場面で有用になります。

そこで、政府では、パーソナルデータ流通のための制度整備を進めています。例えば、個人が自分に関するデータを自身の判断で運用(どの企業に自身のどの情報を使わせるかを判断)するための仕組みとして、「情報銀行」などが検討されています。

自分のデータを正しく管理、運用するためには、個人がパーソナルデータの経済価値を正しく理解する必要があります。私は、どのようなパーソナルデータがどのような経済価値を有しているか、また、その価値を個人がどの程度正しく理解できるか、課題はどこにあるのか、などについて研究しています。そして、これらの研究成果を国のルールづくりに活かせるように活動しています。



▲AIの“材料”=パーソナルデータ



▲個人が自身の個人情報を“取引”する時代

学校における情報教育をどう進めるか

教育学部 准教授 塩田真吾

2020年から完全実施される小学校の新学習指導要領では、プログラミング教育が必修化されます。もちろんプログラミング教育と言っても、プログラマーになるための教育ではなく、主に「プログラミング的思考」を身につけることを目的としています。

しかし、多くの小学校教員にとっては、プログラミングを教えるという経験がなく、戸惑う声も多いのが現状です。そこで私の研究室では、「プログラミングの導入教育」として、企業と共同で教材を開発しています。進む・右に曲がる・左に曲がる・繰り返すなどのパーツをつなげることで動かすことができる教材を開発し、先生方にご活用いただくとともに、その効果を検証しています。

一方、いくらプログラミングが出来ても、それを悪用するような人にとっては意味がありません。そこで大切となるのが「情報モラル」や「情報セキュリティ」の力です。しかし、情報モラル・情報セキュリティを教える場合、その重要性を頭では理解できているにも関わらず、「自分のこと」として考えることが難しく、「自分とは関係ない」「私は大丈夫」と感じる場合が多くあります。そこで私の研究室では、「自分ごと」として考えさせる情報モラル・情報セキュリティ教材を企業と共同で開発を行っております。

このように、私の研究室では、主に学校における情報教育について、様々な企業と共同で研究を行っています。研究室に籠もって研究を行うのではなく、企業との共同研究の成果を学校現場に還元し、そこでの効果を検証するという実践研究ですので、そこが難しくもおもしろく、社会に役立つ研究だと自負しております。



◀プログラミング教育実践の様子

イモムシ型の知育玩具「コード・A・ピラー」を使って、プログラミングを学ぶカリキュラムを開発し、授業に活用。プログラミング的思考を学べるのが特徴。



▲情報モラル教材「楽しいコミュニケーションを考える」



▲情報セキュリティ教材「ネットのあやしいを見きわめよう」

情報モラル教材、情報セキュリティ教材。情報モラル・情報セキュリティを学ぶ授業に活用。

アメリカ環境法における救済法理の研究

人文社会科学部 准教授 米谷 壽代 (Hisayo Maitani) ——— 民法、環境法



研究概要

私が専門とする環境法における救済(民事上の損害賠償や差止め、事前の規制、それに伴う取用補償)の分野は、景観の保全などの都市計画をはじめ、大規模な不動産開発、自然環境の保全の場面で、大きな役割を果たしています。例えば、公のための開発計画が持ち上がったとして、どのように土地の持ち主に明け渡してもらうことが適切といえるでしょうか。売買契約や行政手続きに基づいて市場価格での補償をすれば十分かもしれませんが、もし、その土地がもともと歴史的な価値のある場所で、なんらかの理由で私有されていたものであったらどうでしょうか。あるいは、開発が何十年も先に予定されていて、そのために私利利用が制限されている場合はどうすべきでしょうか。現実社会の中では、税制や政策をはじめ、さまざまな複雑な条件が絡み合っており、補償や損害賠償を巡る議論を総合的に立てることを難しくします。こうした複雑な事情にも対応して、法体系はそこに論理的な整合性を見出す必要があります。

科学技術の進展や社会の変化などによって、私たちが保全・促進すべきだと考える価値も変化します。広く言えば、こうした変化と人間の暮らしの間で、どのように調和を保つことができるのか、という問題を法律的な面から研究しています。

メッセージ

法律は、膨大な条文を暗記する学問ではなく、法体系の理論的な理解と、現実社会の深い理解を融合させるダイナミックな分野だと思っています。そうした法律を学ぶ醍醐味をより多くの学生に感じてもらえるような指導をしていきたいです。

また、研究に邁進するだけでなく、いい意味でワークライフバランスを充実させていきたいと思っています。研究のかたわらで育児もしているのですが、子供を育てていく中で、現代の日本の社会政策や、法解釈上の問題に気が付かされることもたくさんあります。仕事と家庭に相乗効果が生まれるようにうまくバランスを保っていきたくて考えています。

2019年にはカリフォルニア大学バークレー校に客員教授として派遣される予定となっており、自分が専門とする英米法分野での環境訴訟における救済法理の議論をより社会的に意義のある文脈でとらえられるような研究を深めていきたいです。



演習履修学生との東京研修 (東京証券取引所にて 2017年9月撮影)

減数分裂・排卵誘導の分子機構の解明

創造科学技術大学院(理学部) 教授 徳元 俊伸 (Toshinobu Tokumoto) ——— 生殖生物学



研究概要

静岡大学で卵細胞の研究に出会い、学生時代を含め卵の研究に携わり早25年程になりました。この間、卵の減数分裂である卵成熟の仕組みについて卵内の酵素の分離精製、ステロイド膜受容体の遺伝子やタンパク質分子の研究を進めてきました。また、元々生き物が好きでこの分野に進みましたが、個体レベルの研究にも取り組んできました。その中で偶然発見した方法がホルモンを環境水中に添加する産卵誘導法です。

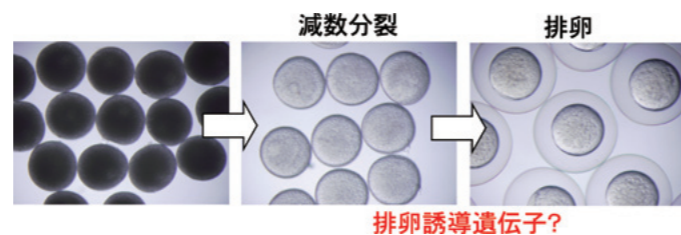
初めは、環境ホルモンの魚類の産卵への影響を個体レベルで調べるために用いた実験法でしたが、この方法を駆使することで未だ謎の多い排卵誘導に関わる遺伝子に迫れる可能性が出てきました。現在、ゲノム編集技術を用いて遺伝子ノックアウトゼブラフィッシュ系統を樹立して排卵誘導遺伝子の解明に向けた研究に取り組んでいます。

この研究のため体内の様子を観察できる透明金魚や卵巣の光るゼブラフィッシュ系統を作出し、研究に用いています。卵巣の光るゼブラフィッシュ系統を用いた実験ではメスからオスへの性転換にも成功しています。既に産卵を開始しているメスがオスになったということはメスの体内に未分化な生殖細胞が残されていたということであり、どのような細胞なのか興味を持たれるところで。

メッセージ

私の学生時代から現在までに生物学の研究内容が目覚ましい進歩を遂げました。一つの遺伝子の配列を決定することも困難であり、それが博士の学位論文のテーマになった時代から実験に使われるほとんどの生物の全遺伝子情報がデータベース上に存在し、簡単に利用できる状況となりました。さらにゲノム編集技術という夢のような方法が使えるようになりました。

今後は生命現象について、幼い頃に抱いた素朴な疑問に答えを出せる時代になってきたと言っても過言では無いでしょう。私はこれを読んでくれる大学生、高校生あるいはもっと若い世代の人たちは幸せだと思います。君達は生命現象の分子レベルの仕組みという本質に迫れる機会に恵まれているはずですので。最近ではファーブル昆虫記の完訳本を読み耽っていますが、例えば昆虫の行動の謎など解明が進む日が間近に来そうな気がします。このような状況ですので本当に生き物が好きで夢中になってその謎の解明に取り組めるような方がこの分野に進んでくれることを期待しています。



超低消費電力・新原理デバイスの研究

電子工学研究所(工学部) 教授 小野 行徳 (Yukinori Ono) ——— ナノエレクトロニクス



研究概要

スマホで動画を見ているとスマホが少し温かくなる(温度が上がる)ことにお気づきの方もいらっしゃると思います。これは電子機器の構成部品であるトランジスタが大量の熱を放出しているため、この熱の発生が電子機器の性能向上を阻害する主要因となっています。私たちの研究室では、「熱の発生」という電子機器につきまとう本質的な問題を解決するために、超低消費電力デバイスの研究を行っています。

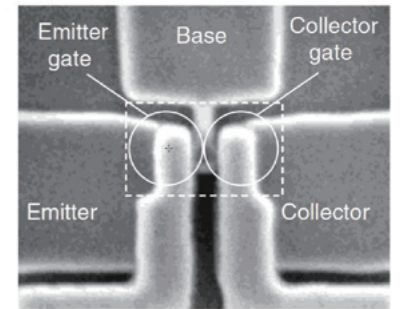
その一例が、私たちが「電子アスピレーター」と名付けた新原理デバイスです。アスピレーターとは、入口と出口の他にもう一つの吸込み口を持つT字管のことで、入口を水道の蛇口へ、出口を排水口へ接続し、蛇口から勢よく水を流すと、吸込み口から液体や気体を引き込み排水口へ流すことができるデバイスです。動作のための電力が不要なため、化学の実験において液体や気体をポンピングするときなどに、簡便に使用されています。私たちは、ナノメートルサイズ(1ナノメートルは10⁻⁹メートル)の極微なトランジスタにおける電子の流れ(電流)でも類似の現象が起こることを見出しました。また、この発見に基づき電子アスピレーターを開発し、電力供給なしに(付加的な熱の発生なしに)トランジスタの電流を増幅することに成功しています。

メッセージ

私の所属は工学部ですが、行っている研究はむしろ理学部のそれに近いかも

れません。新原理デバイスの開発には、新しい現象の「発見」が不可欠です。私たちの研究対象は、現在のトランジスタの基板として用いられているシリコン(Si)であり、ナノメートル領域の極微のシリコンにおける新たな現象の発見を目指しています。

研究をしていると、理解できない実験データが毎月のように出てきます。そしてその多くはその原因すら特定できず、あるいは特定できたとしてもあまり重要でないことが判明してしまいます。これらのデータの中から、本質を見極め本当に重要な発見を見逃さないためには、幅広い知識はもちろんですが、個々の研究者の美意識や哲学も重要になってきます。実験結果を予想するとき、「こうであつたら美しいなあ」とか、「こうあるべきだ」という思い込みや信念が、発見には重要なのです。その意味で、研究者には芸術家に近い感覚が必要だと思っています。私自身、芸術家肌ではありませんが、なるべくそのような感覚を持てるようにと、日々心掛けています。



図：電子アスピレーターの電子顕微鏡写真 (H. Firdaus et al., Nature Communications, 2018)

マイノリティ当事者の実践と共生関係構築の仕組づくり

地域創造学環(人文社会科学部) 准教授 山本 崇記 (Takanori Yamamoto) ——— 差別・マイノリティ研究、地域社会学



研究概要

2016年は非常に印象深い年となりました。障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法などが立て続けに成立・施行されたからです。「人権」や「共生」といった言葉が飛び交う度に、それとは異なる現実があることに我々は気付いています。その「うさん臭さ」を多くの人が感じています。何よりも、当事者のライフストーリーや生活世界、仲間づくりやソーシャルアクションの〈現場〉に寄り添い、彼ら／彼女たちの多様な姿を捉えることを重視しています。主に、インタビュー調査やフィールドワークを通じて、その世界にアプローチしています。この間は、静岡県をはじめ東日本にも少なくない被差別部落(同和地区)の調査を徹底して進めながら、近年では、在日朝鮮人、ハンセン病患者、障害者、セクシュアルマイノリティなどの人々と共に、課題の解決を進めながら、マジョリティとマイノリティのあるべき共生関係の構築を実践的に開発することに力を入れているところです。

メッセージ

「人権」や「共生」は、法制度化しても、スローガンのように声高に叫んでも、また、教育や啓発を徹底しても、簡単には実現しないものです。まずは、「当事者」と呼ばれるマイノリティの世界に足を踏み入れ、共に実践し、その中から、生き生き

とした姿、多様な姿を捉え、マジョリティ／マイノリティの関係を超えて、その世界観をリアルに共有する機会を多く作っていきたくて考えています。「両側から超える」という言葉がありますが、互いの率直なコミュニケーション・共同の中にも、形式的な関係を超えた人間的な共生関係の構築が可能であると考えています。近年、国際社会の中でも注目されている「複合差別」という考え方や、社会学・心理学の中で指摘されている差別をする私たちの関係性・意識の不可避性・必然性。そういった、人間社会につきものの「差別」や「排除」に正面から向き合い、乗り越えていく実践をこの静岡県で学生たちと共に積み上げていきたくて考えています。



在日コリアン学生とのワークショップ

— 静岡大学管弦楽団「第100回記念定期演奏会」を終えて —

静岡大学管弦楽団は2018年12月24日に静岡市清水文化会館マリナートにて『第100回記念定期演奏会』を行いました。1964年に第1回定期演奏会を開催して以来、50年以上という長きにわたり演奏会を上演してきた歴史があります。この度、記念すべき100回目の定期演奏会を成功させた静岡大学管弦楽団に記念定期演奏会を終えての思いなどを伺いました。

— 静岡大学管弦楽団 —

1962年に発足し、個性豊かな学生が集まり現在72名の団員で活動している。週に2回、静岡と浜松の2つのキャンパスに分かれ活動し、1年間の主な活動として、夏と冬の定期演奏会、訪問演奏会がある。訪問演奏会では地域の祭りやイベント、児童養護施設など様々な場所で演奏している。



第100回記念定期演奏会について

● 節目となる100回目とのことで特別なことや思いはありましたか —

ギャラリー展示を行いました。今回のギャラリー展示が現役生にとっては今まで引き継がれてきた歴史を改めて認識し、また卒団生にとっては思い出の品と共に懐かしい仲間と久しぶりに会う場になればと思い準備しました。曲目にはブラームスの『大学祝典序曲 ハ短調Op.80』、ベートーヴェン『交響曲第9番 ニ短調Op.125』を選びました。

● 『交響曲第9番』を選んだ理由は —

「華やかに開催し、より多くの人に聞いてもらいたい」という思いのもと、当団の歴史から見ても珍しい「合唱付き」の曲である「第九」を選びました。合唱付きの曲は他のクラシック音楽とは違い、歌詞を通してそのメッセージが語られており、こと第九に関しては“人類はみな兄弟になる”という崇高なメッセージを含んでいます。日ごろから支えてくださっている地域の皆様やOBOGの皆様に対して、そして一期一会の団員相互に対してこの曲を演奏する意味があると考えました。



● 演奏会を終えての思いは —

1000人を超える多くのお客様にご来場いただき、「より多くの人に聞いてもらいたい」という大きな目標を達成することができ大変嬉しく思います。また、団の全員がこの難曲を通して技術面や運営面で多くのことを学び、これからの団の未来へとつながっていく「節目」としての役割を十分に果たしたと感じています。

団外の方々との関係につきましては、静大OBOGを含む外部の合唱団様約150名に加え、オーケストラやホールのスタッフとして約50名にご協力いただきました。中には県外からご賛助いただくなど、当初の予定よりもはるかに大きなコミュニティとなり、聴衆の皆様を含めた約1300人の間に師弟共演・兄弟共演や各代の同窓会の発足などが実現し、様々な「出会い」「再会」そして「奇跡」が起きました。

さらに、合唱団マネジメントの補佐を「静岡大学混声合唱団OB会」



所属の方に担っていただきました。サークル・年代の壁を越えた「静大のつながり」を感じる演奏会であったことは今回関わったすべての者が共有しており、意味のある演奏会になったと思っています。

静岡大学管弦楽団について

● 静岡大学管弦楽団の特徴は —

① 初心者でも上達できる「師弟」システム

1年生が同じパートの先輩と1対1で師弟関係を結び、演奏面はもちろんのこと、学校生活、団でのわからないことなどをサポートします。演奏の仕方を1対1で教えてもらえるので、大学から楽器を始める人も多いです。

② 他大学や一般の方との交流

管弦楽団では、他大学の団員を「団友」という形で募集しています。現在も団友が数名在籍しています。また、エキストラでいらした社会人の方、訪問演奏で行く訪問先の方々など様々な人と出会うことができます。

③ 時間的に負担の少ない練習

団全体での練習は、週2日計8時間のみです。短い時間で集中して練習しています。よって、勉強と両立している団員が多いです。

● 「静岡大学管弦楽団」として目指すものは —

今回の第100回記念定期演奏会は、ゴールではなく通過点にすぎません。この定期演奏会がきっかけとなり、久しぶりに演奏会に足を運んでくださった方々、当団のことを初めて知ってくださった方々、そんな方々が101回、102回とまた私たちの演奏を聴きにきてくださるよう、「また聴きたい」と思われる演奏を目指して日々の練習に励んでいきたいと思えます。



卒業生紹介 | 様々なジャンルで活躍する先輩たち | 静岡大学の

●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか――

将来的にスポーツに関わる仕事を考えており(教員含め)、当時、生涯学習の重要性が強く叫ばれ、生涯スポーツに魅力を感じたことから、地元の国立大学である静岡大学を選択しました。

●どんな学生生活を過ごしましたか――

高校から始めた陸上競技の400mハードルでインターハイに出場した経験から、大学入学後は、全国の上を目指そうと部活動一色の生活を送っていました。卒業論文や修士論文も短距離走の指導のポイントや選手の感覚の違いについてアンケート調査から分析し、自分の競技力向上にも結びつけました。日本選手権に出場した折に当時の100m、200m、400mハードルの日本記録保持者にもアンケートを手渡し協力していただきました。またバイト先のスポーツジムに当時の日本代表クラスのサッカー選手がトレーニングや合宿に訪れた際、身体つきやトレーニング内容を観察自分に足りないところを探したり、トレーニング講習会で東京に通うなど競技に関しては貪欲に生活していたと思います。(大学時代以降の競技歴：●大学4年/日本学生選手権大会400mH=3位 ●大学院1年/日本学生選手権大会400mH=3位、日本学生対校選手権大会400mH=5位 ●大学院2年/群馬リレーカーニバル(グランプリレース)400mH=3位(県新記録) ●大学4年から社会人2年まで=日本選手権に5大会出場、うち準決勝進出3回)

●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは――

生涯スポーツコースに在籍し、競技も続けていたことから、コーチングに関係する職種を考えていました。怪めでリハビリをしていた期間もあったので、スポーツ医療も含めて幅広く知識を吸収し、自分に合ったものは何か考えていました。

●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか――

県内高校陸上競技部の合宿や練習会などに参加させていただき、競技を通して得た技術や知識を高校生に指導する中で、教えることに興味をもち、彼らが競技会で対戦し成長した姿を見ることが教師に魅力を感じました。ここで多くの先生方と交流できたことも大きかったです。

●現在の職業に就かれてよかったことは――

3つの高校に勤務し、それぞれの学校で担任を受け持ち、卒業生を送り出していますが、3年間で成長した姿を見ると感動します。高校では途中で退学など進路変更する生徒もいるのですが、やめた後も頼られたりするとうれしいですね。指導が難しかった生徒ほど卒業後も連絡がきてくれることがうれしいです。現在、学校には勤務していませんが、今もよく連絡があります。学校に14年勤務した後、教育委員会社会教育課に3年、静岡県警察本部生活安全部少年課に出向で2年、そして静岡県総合教育センターに1年勤務しています。社会教育課では、青少年班環境整備を担当し、街頭指導や地域の声掛け運動の促進など青少年の健全育成に関係する事業を市町社会教育課や青少年補導センターと連携し取り組んでいました。少年課では少年サポートセンター係として、少年の非行や被害児童の立ち寄り支援活動を県内10警察署にある少年サポートセンターと連携して取り組みました。この活動では、大学生ボランティアにも少年に勉強を教えたり、農作業でともに汗を流したり、幼稚園への非行防止教室のお手伝いをしてもらったりなど多岐にわたり活躍していただきました。静大生の登録がなかったため、もっと多くの学生に活動を知ってもらおうと静岡大学をはじめとする県内の各大学に参加を呼び掛けていました。

現在は高等学校保健体育の指導主事として、初任者、経年経験者の学習指導や、学校を訪問させていただき、教育課程に関わる支援をしています。学校現場を離れて、学校が外部機関や地域社会に支えられていることを強く実感するとともに、色々な方と出会えたことに感謝しています。

●本学在学中を振り返って感じること。静大生(後輩)へのメッセージは――

大学は、学びたい分野を専門的に学び社会に生かしていくところです。必修科目もありますが、興味があるから履修するのであって、自分の学びには責任をもつことです。そして、勉強や部活動、趣味を問わず在学中にこれだけは人に負けないものを見つけ、極めていくといいと思います。私は、陸上競技に没頭する中で、大学での研究やアルバイト、高校や他大との合同練習、トレーニング講習会などさまざまな経験を経て全国大会での入賞や記録の向上につながることができました。この経験は、仕事において苦しい状況に陥った時、自分を奮い立たす原動力となっています。結果はなかなかついてきませんが、極めようとした分だけ糧になり自信につながります。是非、大学在籍中に自信を深められるもののために時間を費やしてください。

●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは――

今、教育に求められていることは、各個人が自ら学び知識・技能を習得する中で、自分の考えに責任をもち行動できる「主体的、対話的で深い学び」です。教育現場がいろいろな問題を抱える中で、学校と地域や外部機関との連携が強く叫ばれています。教員を目指す人には、学生のうちに教育以外の機関が子ども達の健全育成のためにどのような取組をしているのか、ボランティア活動等行方中で社会環境の視野を広げておくことをお勧めします。私が出向中に行っていた活動もその一つ。教育に対する視点が広がると思います。

●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは――

大学は、自分を高める場だと思います。講義を通して、自分をどう生かしていくかだと思います。必要ないと思ったらそこで思考は止まってしまう。必要なさうなものでもどう生かすか、というプラス思考が大事です。そして、自分の得意分野はとことん突き詰めることです。大学の先生も、スポーツのコーチも自分の専門分野のことを全て教えることは絶対しません。答えは自分で見つけていく、そんな授業に対する姿勢が必要だと思います。

●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は――

もう退職されましたが、教育学部保健体育科伊藤宏先生に非常にお世話になりました。研究室の先生であり、陸上競技部の監督でもある先生に、学会や海外研修などさまざまな活動にお供させていただくことで視野が広がり、また人脈を築くことができました。指導では、ヒントはくれるけど答えはくれない先生でした。今ある自分で満足するなよ、と教えられたような気がします。

●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など――

陸上競技部で、専門とする400mハードルで大学4年時に日本大学選手権で3位になり、日本選手権の標準記録を突破することができました。その大会の準決勝では、元日本記録保持者の一つ外側のレーンを走り、スタート1台目で並ばれ、テレビ中継において外側の選手が止まって見るとと実況されていました。世界選手権のファイナリストのとなりで、世界クラスの走りを肌で感じられたことは思い出の一つです。



- 1 大学1年の時、日本学生陸上競技対抗選手権大会(通称全日本インカレ)の400mハードルに出場(国立競技場にて)。
- 2 警察出向時に、県内の大学にて少年サポートセンター職員とともに少年非行の現状や学校と警察の連携の重要性について講義。少年の立ち寄り支援活動事業について説明するとともに、大学生ボランティアの必要性についても説明しました。
- 3 高校保健体育科の初任者と、保健体育における授業づくりや指導法などを教え、そして私も研修者の振り返りから多くのことを学ぶことができました。多くのことを学び共に成長できた1年でした。

卒業生・修了生、その人の魅力と素顔に迫ります。

●なぜ、進学先に静岡大学を選びましたか――

英語の教育が充実しており、留学生であった自分には日本語だけではなく英語でも身に付けることができる大学だと思えたからです。

●どんな学生生活を過ごしましたか――

大学内で日本人の友達だけではなく様々な国の友達との交流を行うことで、日々新しい文化を体験しながら過ごしました。また、アルバイトとして韓国語の講師を6年間務め、母国の文化を日本に紹介するなど貴重な経験をさせていただきました。

●静岡大学の卒業(修了)にあたり、将来について考えたことは――

国際的に活動ができる人材になりたいと、グローバルな企業で働きたいと思いました。静岡大学で身に付けた知識を世界で活用したかったです。

●なぜ、今のお仕事を選ばれたのでしょうか――

様々な情報から必要なものを洗い出し、開発につなぐ仕事をやりたかったです。最新情報を受け入れることに興味を持っていたため、企画を明確化するために業界・他国の動向などを把握してものづくりに貢献できる仕事を選びました。現在はV2X(Vehicle to Everything)開発を企画する仕事に従事しています。

●現在の職業に就かれてよかったことは――

中国・欧州・アメリカなど様々な国の関係者と共に仕事をすることができ、様々な文化を体験しながら自分の視野を広げていると思っています。また、自分が企画した内容が商品化に繋がった時、とてもやりがいを感じます。

●本学在学中を振り返って感じること。静大生(後輩)へのメッセージは――

自分の可能性は自分で見つけるべきだと思いますが、その可能性に気づいてくれる周りの人々が何よりも大事だと思います。先生・先輩・同期・後輩など周りとのコミュニケーションを大事にすると、自分も知らなかった可能性を見つけることができるかもしれません。日本語が未熟でうまく周りとのコミュニケーションがとれなかった私は、いつも発表資料に工数をかけ、伝えたい情報を視覚化してきました。その中、先生や同

期に「より明確に情報を伝えることができる資料作りの方法って何だろう」と言われたことをきっかけに論文テーマを決めました。そして、卒業論文「プレゼンテーション制作ガイド」を作成し、情報処理学会にて奨励賞を受賞することができました。

●学生時代に「こんなことをやっておいたほうが良い」と思うことは――

様々なコンテストや学会などに参加することで、自分の新しい可能性を見つけるべきだと思います。私は、学部3年生の時、研究室のメンバーと「ビジネスコンテスト」に参加しました。そこで1人用車(COMS)によるカーシェアリングを企画し、優勝することができました。その際MaaS(Mobility as a Service)やMSPF(Mobility service platform)などに初めて接することができ、現在の会社に興味を持つきっかけとなりました。

●これからの後輩学生に「こんな授業が必要ではないか」と思うことは――

より様々な国の学生とのコミュニケーションをとる授業が増えると良いなと思います。大学生生活の中で様々な経験することにより、将来の選択肢が増えるかもかもしれません。

●在学中、印象に残っている授業や先生(恩師)は――

私は、日本語も未熟でよく単位を落とす学生でした。落とした科目の担当教員であった湯浦克彦先生を訪問し、再受講に関する相談をしました。その際、湯浦先生からのご指導を通じて自分の問題点や今後やるべきことを知ることができました。その時は大変でしたが、やるべきことをやっているうちに自分の興味のあることが明確になり、大学院まで進学することができました。また、湯浦先生の授業は様々な企業関係者と接する機会が多く、企業関係者に自分の課題に対する意見を聞くことができるなど、とても貴重な授業だったと思います。

●学生時代のサークル活動やバイトの経験談など――

私は中学生・高校生の生徒たちに英語と数学を教える講師のアルバイトをやっていました。生徒たちとのコミュニケーションを通じて大学では経験できなかった日本の新しい文化に接することができました。

Nobushige Fujimori

富士盛 伸重

(静岡県立磐田南高等学校 出身)

プロフィール

1975年生まれ
1997年 静岡大学 教育学部 生涯教育課程 生涯スポーツ専攻 卒業
1999年 静岡大学大学院 教育学研究科 保健体育専修 修了

- 1999年 静岡県立伊東高等学校
 - 2003年 静岡県立農業経営高等学校
 - 2005年 静岡大学大学院教育学研究科(内地留学)
 - 2006年 静岡県立浜松大平台高等学校
 - 2013年 静岡県教育委員会社会教育課
 - 2016年 静岡県警察本部生活安全部少年課(出向)
 - 2018年 静岡県総合教育センター-高等学校支援課
- 趣味 = ランニング、ウエイトトレーニング
好きな言葉 = 「大器晩成」
(今は技術的に未熟でも将来的には大きく成長しているという意味で)



Kim Yeonsoe

金 ヨンソ

(韓国ソウル市 祥明高等學校 出身)

プロフィール

1992年生まれ
2015年 静岡大学 情報学部 情報社会学科 卒業
2017年 静岡大学大学院 総合科学技術研究科 修了

2017年 トヨタ自動車株式会社 入社
職種：技術(開発企画)

趣味 = 映画鑑賞とドライブ

好きな言葉 = 「What is food to one, is to other bitter poison」



- 1 愛知県庁公開イベントに弊社のブースでお越しいただいた愛知県の太田知事と共に撮影しました。太田知事のツイッターにも投稿され、とても嬉しかったです。
- 2 静岡大学出身の会社同期たちと撮影した写真です。現在はみんな違う領域で働いており、お互い情報共有しながら一番支え合う関係になっています。

静岡ショップのこだわり

勉学に励む人が多く来店することから、専門書は特にこだわっています。新刊を積極的に入荷し鮮度を保つ一方で、ずっと読まれて欲しいロングセラーの専門書もお取り揃えしています。昨年から設けたコミックコーナーには人気の漫画に加え『ドラゴン桜』など学問の導入にもなるマンガも置いてありますよ。学生の生活や就活に役立つ料理本・マナー教本は年間を通じて人気です。本から得られる知識を大事にして欲しいという願いと、学生たちの役に立ちたいという私たちの思いを込めて商品を選んでいきます。



静岡ショップの『GI棚』

静岡ショップでは生協学生委員会がおすすめの書籍を紹介するGI棚が活躍中。毎月テーマを決めて書籍を選び、親しみやすい手作りポップを添えて紹介。ぜひチェックしてみてください。

書籍の取り寄せも行っています。店頭でも承りますがスマホからでもご利用いただけるHonyaClubがとっても便利です！



～書籍の他にも製本・各種検定試験など様々なサポートができます。

浜松ショップのこだわり

学生の需要に即して、静岡大学の授業や研究内容に関連する書籍をおいているのが特徴です。専門書は浜松キャンパスの学部構成に対応するかたちで、数学・化学・物理・機械・電気・情報の各分野を中心に取り揃えております。他にも雑誌や文庫、コミック、就職書、語学書などもお取り扱いし、雑誌は漫画雑誌から科学誌まで幅広く展開していますよ。大学生活はあっという間です。学生時代に読んだ本は自分の血肉になるのでできるだけ多く読んでもらいたいです。



読書マラソン

読書推進活動の一環として生まれた「読書マラソン」。もともとは一部の生協書店で行われていた試みでしたが、現在では全国に広がっています。静岡ショップ・浜松ショップともにこの活動を取り入れており、学生たちがオススメの本を手書きのコメントで紹介し合っています。左の写真は浜松ショップの読書マラソンコーナーの様子です。

困ったことがあれば何でも頼ってくださいね！～

キャンパス別 小説・漫画

売上ランキング (※2018年4月～12月 売り上げデータより)

小説 静岡ショップ

羊と鋼の森	1位
人魚の眠る家	2位
ユートピア	3位
明日の子どもたち	4位
オオカミ少女はいなかった	5位

漫画

ONE PIECE
HUNTER×HUNTER
約束のネバーランド
キングダム
ハイキュー!!

小説 浜松ショップ

やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。13巻	1位
ラプラスの魔女	2位
夜は短し歩けよ乙女	3位
四畳半神話大系	4位
ガンゲイル・オンライン 7巻	5位

漫画

ONE PIECE
東京喰種:re
HUNTER×HUNTER
ハイキュー!!
僕のヒーローアカデミア

野菜園芸学研究室

良い野菜を安定的に生産したい！
…を叶える研究室



私達野菜研は、土を使わない『養液栽培』の技術を利用し、野菜の育ち方を理解し、**安心・安全で高品質な野菜を安定して育てる**方法を追求し、社会に貢献することを目指しています。

鈴木克己 先生 ← おいしいご飯が大好き♡時々おやつをくれます

野菜研の基本情報

所在

静岡キャンパス 農学総合棟4階
静岡大学農学部 生物資源科学科
野菜園芸学研究室

メンバー

教授 2人
修士2年 3人 学部4年 6人
修士1年 4人 学部3年 6人
パート 2人

卒業生の進路

種苗メーカー
農業資材メーカー
食品メーカー
公務員 など



学生の部屋は
こんな雰囲気

23人の研究室は、農学部
では大所帯な方です。
仲良く研究しています。

トマト、メロン、ワサビ、イチゴ、コマツナ、ハツカダイコン、セロリなど様々な野菜を用いて研究しています。栽培実験、形態観察、成分分析、遺伝子解析など実験方法も多様です。



サッカーが大好き♡泣くて素敵な声 → 切岩祥和 先生

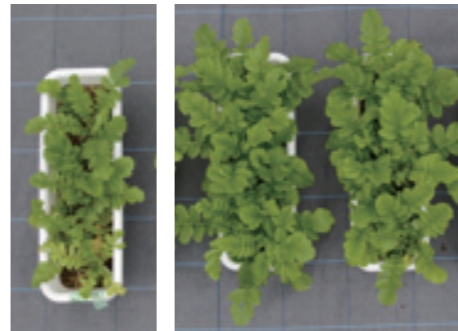
研究内容

トマト不良果に関する研究

果実に発生すると販売できないいろいろな生理障害(尻腐れ、芯腐れ、コルク果、着色不良、裂果など)の原因を解明しています。
その予防のための培養液管理や環境制御、薬剤処理の検討など様々なアプローチで実験しています。



DW(ctrl.) 200kHz 1000kHz



野菜の生育に及ぼす超音波の影響

実験器具やメガネの洗浄に用いられる超音波。超音波を植物の種子に照射すると、発芽率および生育の向上、ストレス耐性の付与などに影響を与えることが判明しました。

この他、野菜に関するいろいろな研究を行っています。

石垣イチゴの省力栽培

100年以上の歴史がある久能の石垣イチゴ。石垣の組み上げ作業など、栽培にかかる手間を削減する方法を検討しています。



研究室のイベント(雰囲気)



千葉大学との合同研修



学会お疲れ様会@北海道



スイカ割り



ゼミの様子

毎年様々なイベントがあり、メンバー皆が仲良く過ごしています。収穫した野菜で料理を作ってパーティーをすることも…?

学生の活躍トピックス

静岡大学ロボットファクトリーが「レスキューロボットコンテスト」優勝

8月に神戸市で行なわれた「第18回レスキューロボットコンテスト」で学生サークル「静岡大学ロボットファクトリー」が優勝しました。レスキューロボットコンテストは、阪神・淡路大震災をきっかけに始まった災害救援ロボットの競技会で、6分の1スケールの被災した街並を再現したフィールドから被災者を探し出し、遠隔操作型ロボットを使って迅速かつやさしく救助する技術を競います。静岡大学チームは予選から圧倒的な強さを見せ、最優秀賞であるレスキュー工学大賞を受賞しました。他のチームには無い独自の機構や操縦者を自律的に支援する協調制御法をロボットに搭載し、迅速で確実な救助を実現したことが評価され、優勝を含む4つの賞(レスキュー工学大賞(優勝)、ベストチームワーク賞、inrevium杯、計測自動制御学会特別賞)を同時に受賞しました。



硬式野球部「第1回大学野球オータムフレッシュリーグ in 静岡」に出場

11月23日から25日までの3日間、静岡市内の3球場で開催された「第1回大学野球オータムフレッシュリーグ in 静岡」に硬式野球部が出場し、東京六大学の名門チームと熱い試合を繰り広げました。この大会は大学野球の選手育成を目的に実施するだけでなく、地元静岡の高校生との交流試合、小学生等への野球教室などの地域貢献プログラムも併せて実施されました。大会初日の静岡大VS明治大の試合には、石井学長も応援に駆けつけ、静岡大ナインを激励するとともに大会のオープニングを飾る始球式を務めました。



大会2日目に早稲田大学と対戦し、5-4の熱戦を見事勝利するなど、堂々たる戦いぶりを見せ、選手たちは普段、対戦する機会がない東京六大学チームとの試合においても、自慢の打撃が快音を響かせました。

教育学部技術教育専修学生「東海・北陸 地域ブランド総選挙」において最優秀賞を受賞

大学生と地域関係者の協働により地域団体商標を取得した地域の商品などの魅力を発信し、地域ブランド・地域団体商標に注目を集めることを目的として、特許庁が開催した「東海・北陸 地域ブランド総選挙」において教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育学専攻 技術教育専修学生(遠藤直弥さん、嶋山志志さん、杉澤洋斗さん)と由比港漁業協同組合のグループが最優秀賞ならびにプレゼン賞を受賞しました。決勝戦では、地域団体商標(由比桜えび、由比港漁業協同組合)等の魅力を紹介し、由比を巻き込んだ地域課題の解決を意図した新規事業のブランドコンセプトを丁寧かつ論理的に事業計画を説明したことが高く評価されました。



静岡大学未来創成基金寄附者芳名一覧

(五十音順)

静岡大学未来創成基金にご寄附をいただきまして、心より御礼申し上げます。ご厚意を賜りました皆様へ感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

〈個人〉

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 愛染巧様 | 青木式様 | 青野哲士様 | 青野吉晃様 | 山田鐵夫様 | 浅井一省様 |
| 厚海大様 | 天方啓二様 | 天川洋重様 | 天野薫様 | 貴夫章様 | 新井昭文様 |
| 荒川貴美代様 | 荒川進様 | 有海重宏様 | 井口一成様 | 池田和彦様 | 石川俊雄様 |
| 石川諭様 | 石川大輔様 | 伊藤研自様 | 朝順様 | 磯村孝之様 | 市川浩代様 |
| 井出晃史様 | 伊藤大研様 | 伊藤宏悟様 | 伊藤朝隆様 | 真由子様 | 伊藤美治様 |
| 井上治彦様 | 猪川全進様 | 良太樹様 | 玲子明様 | 宇賀田栄様 | 岩田昭夫様 |
| 岩野徹也様 | 岩堀打江様 | 直樹良人様 | 康和良様 | 大井勉様 | 森久石様 |
| 内石秀樹様 | 大石正隆様 | 直人美子様 | 遠藤和憲様 | 太田敬一郎様 | 大石敏男様 |
| 太田見直様 | 大西真理子様 | 大森扶美子様 | 岡部美智代様 | 小倉一郎様 | 太田剛之様 |
| 小倉裕二様 | 刑部政司様 | 尾崎隆弘様 | 尾関弘光様 | 落合正巳様 | 小野文義様 |
| 笠井隆司様 | 片岡増美様 | 加藤和広様 | 加藤敏純様 | 加藤弘士様 | 加藤好子様 |
| 金井裕和様 | 哲郎様 | 金子芳記様 | 悦子学様 | 上島康幸様 | 上條勝弘様 |
| 神谷裕史様 | 正望様 | 川瀬晴久様 | 動昌夫様 | 川田善正様 | 川上龍司様 |
| 川口和彦様 | 祐子様 | 菅公一郎様 | 昌夫様 | 菊池武博様 | 川那部雅俊様 |
| 北野寛様 | 唯一様 | 草間久米澤様 | 久保昭彦様 | 久保田花枝様 | 北嶋久保田幸夫様 |
| 熊野敏夫様 | 久西侃様 | 小林光治様 | 栗田誠一様 | 桑原士郎様 | 久保田幸夫様 |
| 小玉正雄様 | 小西鎮美様 | 酒井忠基様 | 小林利光様 | 坂尾淳様 | 近藤治良様 |
| 酒井重幸様 | 櫻井健博様 | 笹原恵大様 | 酒井久司様 | 峰生様 | 左口敬祥様 |
| 佐久間真吉様 | 設楽俊之様 | 杉井尚子様 | 清水靖弘様 | 新川靖祐様 | 佐野啓啓様 |
| 澤柳俊達様 | 修様 | 厨子光政様 | 杉本哲様 | 杉本悦夫様 | 杉本順一様 |
| 新開修様 | 杉山貴明様 | 鈴木竹治様 | 鈴木敏弘様 | 鈴木宏史様 | 鈴木賢一様 |
| 山山秀治様 | 鈴木康博様 | 砂子了一様 | 早福定身様 | 高田一郎様 | 高田将司様 |
| 鈴木正幸様 | 高橋直幸様 | 高橋安彦様 | あけみ様 | 高田武井様 | 高田邦夫様 |
| 高橋保肇様 | 貴一様 | 田嶋直輔様 | 田中道晴様 | 田邊洋司様 | 田邊武人様 |
| 谷昇一様 | 洋子様 | 谷口達之様 | 鳥生雅彦様 | 土屋忠宏様 | 堤隆廣様 |
| 坪内俊彦様 | 紗香様 | 富田俊彦様 | 敦名倉様 | 中野公彦様 | 中道均様 |
| 中尾彰宏様 | 陽保様 | 中島一郎様 | 中村信一様 | 西孝子様 | 中野直行様 |
| 中村聡様 | 富雄様 | 難波信一様 | 西元元様 | 西明様 | 西馬元美様 |
| 成田正幸様 | 壽夫様 | 西中川元様 | 芳賀利允様 | 糠谷政幸様 | 野口房彦様 |
| 西澤玲子様 | 博之様 | 芳賀憲兒様 | 瀨野由貴夫様 | 原和彦様 | 長谷川雅之様 |
| 野尻誠様 | 典昭様 | 日比野敦子様 | 藤井勝之様 | 廣野雅道様 | 原田直彦様 |
| 畑中一世様 | 一猛様 | 堀之内勝之様 | 堀之内卓様 | 藤井敏様 | 福岡武憲様 |
| 日色雅澄様 | 昌彦様 | 前中卓様 | 松浦晴智様 | 本田勝一様 | 本多弘澄様 |
| 福田雅澄様 | 洋子様 | 松本健吉様 | 松本智彦様 | 増田耕而様 | 増田一様 |
| 堀井洋之介様 | 松本貞良様 | 見崎宣男様 | 三津間美也様 | 丸橋幸雄様 | 松田政勝様 |
| 前川整洋様 | 三輪洋大様 | 三輪洋大様 | 武藤宏文様 | 峰野久光様 | 三宅早苗様 |
| 松井くにお様 | 望月秀男様 | 望月秀男様 | 望月理加様 | 村上淳様 | 望月守屋様 |
| 松本勝行様 | 伊三郎様 | 八木伊三郎様 | 山口啓司様 | 森本正様 | 矢部隆人様 |
| 三重野哲強様 | 友善様 | 友善様 | 横山峰二様 | 柳澤卓巳様 | 山田俊宏様 |
| 三輪強様 | 晴香様 | 晴香様 | 渡邊弘様 | 米田好久様 | 山田俊宏様 |
| 望月利夫様 | | | | 和多野穰様 | |
| 八尾照隆様 | | | | | |
| 山泉光浩様 | | | | | |
| 屋良朝治様 | | | | | |
| 鷺山真一様 | | | | | |

〈法人等〉

- | | | |
|--|-------------------------|---------------------|
| 株式会社アイエイアイ様 | 株式会社小糸製作所様 | 株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社様 |
| 株式会社中央発明研究所様 | 株式会社東郊産業様 | 株式会社日本ロック様 |
| 静岡大学工学部(昭和43年卒業生および昭和39年入学生)卒業50周年記念同窓会様 | スター精密株式会社様 | |
| トヨタ自動車株式会社 静大会様 | 浜松工業会浜松支部・理学同窓会・農学部同窓会様 | 矢崎エナジーシステム株式会社様 |

※ご芳名は、原則平成30年8月1日から平成31年1月31日までの間にご寄附いただき、公開についてご承諾いただきました方について掲載させていただきます。なお一部、クレジット等含めご入金日より、前回掲載分に間に合わなかった寄附者の方で、今回ご入金の確認ができた方につきましては、掲載させていただきます。ご入金が未確認の皆様については、今後、ご入金の確認ができ次第、順次、広報誌に掲載させていただきます。

静岡大学未来創成基金について

静岡大学未来創成基金へいただいたご寄附は、寄附者の皆様のご意向に沿い、有効に活用させていただきます。主な用途は以下のとおりです。

- ・学生奨学支援
- ・国際交流事業
- ・学術研究支援
- ・キャンパス整備
- ・修学支援事業
- ・特定基金事業

※静岡大学未来創成基金の詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

静岡大学学長室

電話：054-238-4402
E-mail：kikin@adb.shizuoka.ac.jp

未来創成基金ウェブサイト

<https://wwp.shizuoka.ac.jp/fund/>

